

私と読書（その2）

校長 西藤 昌裕

年末を迎え、今年もまた自分の手帳に記された読了本の冊数を数えてみた。日付と書名を確認することで1年を振り返るこの作業は、私にとって大学入学以来の恒例行事になっている。平成26年の手帳には140冊の書名が記されていた。近年は毎年100冊読了を目標としており、今年は目標を大きく上回ることが出来て素直に嬉しかった。

この1年で多くの単行本、文庫、新書を手にした。私にとっての各月のベスト作品（専門書は除く）を以下にまとめる。

- | | |
|-----|---------------------------|
| 1月 | 『なずな』（堀江敏幸、集英社文庫） |
| 2月 | 『用心棒日月抄』（藤沢周平、新潮社）（*） |
| 3月 | 『クリフトン年代記1～3』（アーチャー、新潮文庫） |
| 4月 | 『未来を変えた島の学校』（岩本悠他、岩波書店） |
| 5月 | 『鳥玄坊根源の謎』（明石散人、講談社文庫）（*） |
| 6月 | 『一路』（浅田次郎、中公文庫） |
| 7月 | 『光圀伝』（沖方丁、角川文庫）（*） |
| 8月 | 『海賊とよばれた男』（百田尚樹、講談社文庫）（*） |
| 9月 | 『等伯』（安部龍太郎、文春文庫）（*） |
| 10月 | 『生きるぼくら』（原田マハ、徳間文庫） |
| 11月 | 『日本<汽水>紀行』（畠山重篤、文春文庫） |
| 12月 | 『しずかな日々』（椰月美智子、講談社文庫） |

圧倒的に小説が多い。表に載せている以外にも、『天地明察』（沖方丁、角川文庫）、『舟を編む』（三浦しをん、光文社文庫）、『1Q84 1～3』（村上春樹、新潮文庫）は、これからも幾度となく読み返す（*）ことになりそうだ。新書が新しい情報を取得する（「新たに知る」）ために読むものであるのに対し、小説は思いを巡らす、心を揺さぶる（深く考える）ために読むものであると自分自身のなかで区分している。勿論、新書のなかにも思索を深めるために有用・有益であるものもあり、近年では佐藤優氏や佐伯啓思氏の本を好んで手にしている。

浜高の生徒諸君は何を目的として本を読みますか。勉強と部活動の両立を達成するという目標を掲げている高校生活において、読書する時間を持つことはなかなか容易ではないと思う。しかしながら、一冊の本が自身の進む方向を示す、一冊の本が不安や悩みを越える力を与える、即ち一冊の本が君たちの人生を変えることもあると思う。限られた時間のなかで、書物を手にすることを強く勧める。そして、自分の人生を変える本、自分の人生を支える本に一人一人が出会えることを切に願う。

浜高の『読書感想文・感想画集』は、一人一人の生徒のこの一年間の読書体験の成果を示している。ここに掲載された一篇の文章を読むこと、また一枚の絵を鑑賞することで、新たな本との出会いが生まれることを心から期待している。

（浜高読書感想文集巻頭言 平成28年1月記）